

# タイ商工会議所大学の日本語プログラム

——短期留学生の来日前学習について——

伊 藤 恵 美 子

## 目 次

1. はじめに
2. UTCC の歴史と特徴
3. 調査
  - 3-1. 調査方法
  - 3-2. 調査結果
    - 3-2-1. 学習目標
    - 3-2-2. シラバス
4. むすびにかえて

## 1. はじめに

本学は山口銀行の奨学金を受けて来日する外国人を短期留学生として毎年受入れており、1990年以降タイ商工会議所大学 (The University of The Thai Chamber of Commerce: UTCC、以下 UTCC とする) から留学生を外国人科目等履修生として迎えている<sup>1)</sup>。筆者が赴任した2005年の留学生 Eamdee Teerawat さん、2006年に来日した Srinarat Prapapan さん、そして2007年度在学の Korwong Sawinee さんは、いずれも非漢字圏出身とは思えないほど漢字・語彙が豊かで、プロジェクトワークの発表ではスピーチレベルが適切で自然な日本語が話せるので、クラスメートからも賞賛されている。

第二言語習得の難易度は学習者の母語と目標言語との距離に相関すると言われており、日本語の習得は日本語と文法構造が似ている朝鮮語 (韓国語) 母語話者や母語で漢字を使う中国語話者に有利であるとされている。タイ語は言語系統から見ればシナ・チベット語族のうちシナ・タイ語派に属し、これは漢語とタイ語に大別される。シナ・タイ語派の三大特徴として、(1) 単音節的で、(2) 声調があり、(3) 孤立語であること、が挙げられる (富田, 1990: 3)。孤立語とは単語の語形が常に一定、言い換えれば動詞に活用がなく、性・数・格・人称・時制を

示す標識がない言語である (赤木, 1989: 164)。一方、日本語は (1) 単音節の単語は数が限られていて、(2) 声調はなく、(3) 文法的意味を表すために述語に形態素を連ねていく膠着語である。このようにタイ語は言語構造が日本語と大きく異なっているうえに、表記は漢字ではなく、サンスクリット系の文字から変化したと考えられているタイ文字を使用する (綾部, 1982: 102)。したがって、タイ語母語話者の日本語習得は東アジア出身の学習者に比して時間がかかるというのが一般的な見解であり、タイの大学で日本語を専攻しても使い物になるレベルまで習得するタイ人は非常に少ない (山田, 2002: 80)。

では、UTCC はいかにして日本語の運用力を養成しているのだろうか。その具体的な教授法を探るために、UTCC の授業概要を調査することにした。

## 2. UTCC の歴史と特徴

国際交流基金のホームページ「日本語教育国別情報」によれば、2006年現在タイでは国立・私立を合わせて85の大学で日本語教育が行われている。そのうち主専攻学科を持つのは国立大学が28校、私立大学が3校である。UTCC は私立大学3校のひとつであり、20年以上の日本語教育の歴史を持つ。UTCC は、1965年のタマサート大学、1966年のチュラーロンコーン大学、1976年のカセサート大学、1977年のチェンマイ大学に次いで1980年に日本語講座を開設した。主専攻は、チュラーロンコーン大学が1971年に、タマサート大学が1982年に、カセサート大学が1983年に、UTCC が1986年に、チェンマイ大学が1987年に設置している (国際交流基金, 2006)。

公開されている大学広報のホームページによれば、タイ暦2483年 (西暦1940年) に UTCC の前身がタイ商工会議所事務所で創立された。当初は

「商業専門学校」という名称で、学生は300人であった。この学校の新規性は、ロンドン商工会議所の手法に倣って学生を指導するという点であった。しかし、太平洋戦争勃発のため、「商業専門学校」は開校から1年で閉鎖となった。22年後のタイ暦2506年（西暦1963年）に、再び開校した。当時は3年間のコースで、公立大学に関する法令に基づいたものであった。

タイ暦2508年（西暦1965年）7月8日に、「タイ商工会議所専門学校（College of Commerce of The Thai Chamber of Commerce）」と改称し、翌年のタイ暦2509年（西暦1966年）に、商工会議所法第28条に基づき商業と経済について研究する大学となった。

タイ暦2514年（西暦1971年）2月2日に、政府は私立専門学校に3年間を超えるコースを認めたので、タイ暦2516年（西暦1973年）3月9日に4年間のコースを新設し、同時に名称を「商業単科大学」とした。

タイ暦2517年（西暦1974年）6月21日に総合大学化の認可を受け、大学名を「タイ商工会議所大学（The University of The Thai Chamber of Commerce、略称UTCC）」に改称した（UTCC, 2007）。

人文学部（School of Humanities）はタイ暦2523年（西暦1980年）に設置され、日本語学科（Major Japanese）は英語学科とともに当初からコースが設けられている。その後、社会からの要請に従って新しい学科が増え、現在の人文学部は英語学科、日本語学科、英文学科、タイ語コミュニケーション学科、情報学科、中国語学科の6学科編成である（UTCC, 2008）。

### 3. 調査

#### 3-1. 調査方法

調査は2007年9月下旬に筆者がUTCC人文学部日本語学科を訪問して、同学科の日本語担当者に対して直接行った。まずコースデザインで中心的な役割を担った佐藤純先生に同学科の特徴と学習目標について、次に齋藤正雄先生、福池秋水先生、湊佳世先生に担当科目について聞きとり調査を半構造的に行った。

#### 3-2. 調査結果

##### 3-2-1. 学習目標

現在、日本語を主専攻として大学を卒業した人は、高校教員の給与が安い<sup>2)</sup>、あるいは日本語を教える自信がない、などの理由で、教職には就かず日系企業に就職する人が大半である（Pranee, 2004: 79）。ちなみに、タイの大学は卒業生の追跡調査を行っていないので卒業生の詳細な進路は把握が難しいが、一例として挙げられているタマサート大学では卒業生の81.6%が日系企業に勤務している（国際交流基金, 2006）。タイ商工会議所大学においても卒業生の全体的な進路調査は行われていないので正確な人数は不明であるが、おそらく大多数の卒業生は日系企業に職を得ているだろうと推測される（佐藤先生、およびKorwongさんの談話）。学生の就職先が日系企業なら、職場で起こる異文化摩擦を未然に防ぐため、日本の社会文化的規範に則った行動が取れるような教育をすべきであるとの結論に至り<sup>3)</sup>、日本企業のビジネス慣習を重視した教授項目を採用している（佐藤先生の談話）。

##### 3-2-2. シラバス

タイの言語政策を概観すると、大学院では日本文学か日本語学が研究の主流であるが、学部レベルでは日本文学・日本語学が必修科目でない大学も少なくなく、日本語教育はコミュニケーションのための技能養成が目的とされている（Voravudhi, 2001: 109）。これは、「1999年タイ国教育法」第27条に基づく基礎教育の方針・目的・目標・構成の各枠内に、外国語教育は人格形成や複眼的思考力および就職率の向上を目的とすると明示されていることに拠る（Pranee, 2004: 72）。さらに、2001年に教育省教育局が作成した『第二外国語教科のシラバス・ガイドライン』には、日本語教育の目標の7番目に、将来の就職活動に役立つよう、校内および校外で日本語を練習し、実際の場面で使用する、とあり（Pranee, 2004: 74）、従来の教育内容を一段と発展させ、文法構造よりも機能またはコミュニカティブ・アプローチを重視するカリキュラムを土台としていることがわかる（Pranee, 2004: 77）。

タイの国立大学は国のカリキュラムに沿って教育が厳格に行われるが、私立大学は父兄や業界のニーズに合わせてより柔軟に教育が行われる

表1 1年生のシラバス【第1セメスター】

科 目	単位	受講に必要な既習科目
一般科目（2科目選択）		
タイの慣習	3	
英語1	3	
（1科目選択）		
ビジネス入門	3	
（1科目選択）		
統計入門	3	
情報技術	3	
（1科目選択）		
生活の質	3	
美学	3	
必修科目（1科目選択）		
タイの文化	3	
主専攻（1科目選択）		
日本語1	3	
計	21	

表2 1年生のシラバス【第2セメスター】

科 目	単位	受講に必要な既習科目
一般科目（3科目選択）		
英語2	3	英語1
社会心理学	3	
科学と技術	3	
必修科目（2科目選択）		
人文科学の原理	3	
英語の発音	3	
主専攻（1科目選択）		
日本語2	3	日本語1
計	18	

表3 2年生のシラバス【第1セメスター】

科 目	単位	受講に必要な既習科目
一般科目（1科目選択）		
英語3	3	英語2
必修科目（1科目選択）		
言葉と文化	3	
必修科目（2科目選択）		
東洋文学	3	
哲学	3	
西洋の文化	3	
歴史と文化遺産	3	
主専攻（1科目選択）		
日本語3	3	日本語2
日本語会話1	3	日本語2
計	18	

表4 2年生のシラバス【第2セメスター】

科 目	単位	受講に必要な既習科目
一般科目（1科目選択）		
英語4	3	英語3
必修科目（1科目選択）		
論理学	3	
東洋の文化	3	
西洋の神話	3	
東洋の神話	3	
主専攻（3科目選択）		
日本語4	3	日本語3
日本語会話2	3	日本語会話1
日本文化	3	
主専攻の選択科目（1科目選択）		
日本の社会と政治	3	
日本の経済と貿易	3	
計	18	

表5 3年生のシラバス【第1セメスター】

科 目	単位	受 講 に 必 要 な 既 習 科 目
必修科目（1科目選択）		
修辞法	3	
主専攻（3科目選択）		
日本語構造	3	日本語4
日本語会話3	3	日本語会話2
日本語読解1	3	日本語4
主専攻の選択科目（1科目選択）		
日本の社会と政治	3	
日本の経済と貿易	3	
コンピュータ日本語	3	日本語4
副専攻（1-2科目選択）	3-6	
計	18	

表6 3年生のシラバス【第2セメスター】

科 目	単位	受 講 に 必 要 な 既 習 科 目
必修科目（1科目選択）		
倫理学	3	
主専攻（4科目選択）		
日本語会話4	3	日本語会話3
日本語読解2	3	日本語読解1
日本語作文	3	日本語構造
日本語翻訳入門	3	日本語構造
主専攻の選択科目（1科目選択）		
日本の社会と政治	3	
日本の経済と貿易	3	
コンピュータ日本語	3	日本語4
副専攻（1-2科目選択）	3-6	
計	21	

表7 4年生のシラバス【第1セメスター】

科 目	単位	受 講 に 必 要 な 既 習 科 目
主専攻（2科目選択）		
日本語読解とディスカッション1	3	日本語会話4
ビジネスコミュニケーション1	3	日本語読解2、日本語作文
主専攻の選択科目（1科目選択）		
コンピュータ日本語	3	
日本語ビジネス会話	3	日本語4
日本語ビジネス翻訳	3	日本語会話4
観光日本語	3	日本語翻訳入門
日本社会の労働文化	3	日本語会話4
副専攻（1-2科目選択）	3-6	
自由選択科目（1科目選択）	3	
計	18	

表8 4年生のシラバス【第2セメスター】

科 目	単位	受 講 に 必 要 な 既 習 科 目
必修科目（1科目選択）		
グループダイナミックス	3	
主専攻の選択科目（1科目選択）		
日本語読解とディスカッション2	3	日本語読解とディスカッション1
ビジネスコミュニケーション2	3	ビジネスコミュニケーション1
日本語通訳	3	日本語ビジネス会話、日本語ビジネス翻訳
観光日本語	3	日本語会話4
日本社会の労働文化	3	
日本学セミナー	3	
職業体験	3	
副専攻（2科目選択）	6	
自由選択科目（1科目選択）	3	
計	12-15	

(Voravudhi, 2001: 107)。UTCC は前章で述べたように、商工会議所によって設立された私立大学なので、学費を負担する保護者や産業界の意向が反映された教育が行われる傾向があると言われている。

次に、UTCC のシラバスを実際に見ていく。シラバスは数年に一度改定されているので、現在使われている最新版を学年別に表 1 から表 8 に示す<sup>4)</sup>。UTCC ではタイ人と日本人の教員をそれぞれの特長を最大限に活かせるように配置、つまり初級クラスでは学生の日本語の理解を促進するためにタイ人が文法をタイ語で説明し、初中級レベルの会話クラス以上の科目は学生の自然な日本語運用力を養成するためにネイティブスピーカーの日本人が担当している。コースはプログラム学習理論に基づいて、学習項目は易しいものから難しい内容に段階的にデザインされているので、学生は易しい内容の科目の試験（例えば「日本語 1」）に合格しなければ次の段階の科目（例えば「日本語 2」）を履修することはできない。

1・2 年生は、一般科目・必修科目と平行して主専攻の科目「日本語 1～4」「日本語会話 1～4」を履修する。1 年生の「日本語 1」「日本語 2」は東京外国語大学の『初級日本語』、2 年生の「日本語 3」「日本語 4」は『初級日本語』の続編『中級日本語』を使った授業である。「日本語会話 1～4」は、市販の教材を基に UTCC が作成した自作教材を使った授業である。「日本語会話 3」は敬語を使えること、「日本語会話 4」は抽象的な事柄に対して意見が言えることを学習目標にしている。2 年生の第 2 セメスターでは、主専攻の「日本文化」のほか、主専攻の選択科目としてタイ語で説明する日本事情の科目「日本の社会と政治」「日本の経済と貿易」も開講される。

3 年生になると、一般科目はなくなり必修科目も選択の 1 科目と減って、主専攻と主専攻の選択科目を主に履修する。3 年生の第 1 セメスターでは、主専攻で「日本語 4」修了後の中級文法への橋渡しの内容の「日本語構造」、「日本語会話 2」から連続する「日本語会話 3」、読解力を養うための「日本語読解 1」に加えて、現代人にとって必須の情報リテラシーを日本語で養成する「コンピュータ日本語」が主専攻の選択科目として用意されている。第 2 セメスターでは、第 1 セメスターから連続する

「日本語会話 4」「日本語読解 2」に加えて、主専攻で「日本語構造」を履修した学生に「日本語作文」「日本語翻訳入門」が開講される。

4 年生の第 1 セメスターでは、主専攻で「日本語会話 4」を履修した学生に「日本語読解とディスカッション 1」、「日本語読解 2」と「日本語作文」を履修した学生に「ビジネスコミュニケーション 1」、主専攻の選択科目で「日本語ビジネス会話」「日本語ビジネス翻訳」などが開講される<sup>5)</sup>。「日本語読解とディスカッション 1～2」は、課題文を読みこなし、その課題について討論する授業である。「ビジネスコミュニケーション 1～2」と「日本語ビジネス会話」は、卒業生の大半が日系企業に就職する UTCC の事情を踏まえた特色ある科目で、私企業で就労経験のある日本人教員が職場で実際に役立つ日本語を指導している。「ビジネスコミュニケーション 1～2」は、タマサート大学で出版された『日本人と働くタイ人のための職場の日本語』を基に、ビジネス文書の書き方を実際に行う。このテキストは、日本語の技能の上達を目指すにとどまらず、日系企業でタイ人が日本人と摩擦のないコミュニケーションが築けるように、社会文化的な知識が豊かになる工夫が施されている（大畑, 2003）。他方、「日本語ビジネス会話」は「報・連・相」<sup>6)</sup>や計画的に休暇を取る等、日系企業のビジネス習慣を見に付けること、ウチとソトの人間関係を理解して社外の人と敬語を使って適切に話せることを目標にしている。第 2 セメスターでは、主専攻の選択科目で第 1 セメスターから連続する「日本語読解とディスカッション 2」「ビジネスコミュニケーション 2」が開講される。

#### 4. むすびにかえて

本調査により、UTCC では文化の異なるタイ人の大学生に、日本語がただ使えるだけではなく、遅刻をしない、遅刻をしたら謝るなど日本社会では当たり前とされていること<sup>7)</sup>、タイ人と違う日本人の行動様式<sup>8)</sup>、さらにタイ人と異なる日本人の価値観を理解させ、「知っている」から「している」になるよう指導していることがわかった。

現在タイに進出している日系企業は 2,000 社を超える（大畑, 2003）。2006 年 9 月に新しくスワンナ

プーム国際空港 (Suvarnabhumi International Airport) がオープンしたことも手伝い<sup>9)</sup>、バンコク日本人商工会議所の会員名簿に名を連ねる日系企業は増加の一途を辿っている。その日系企業で働くことを人生における成功の実現と思い、学生は日本語を4年間一生懸命に勉強するが、来日の切符を手に行けるのはわずか一人である<sup>10)</sup>。学生の派遣期間は1年間なので、留学を成功に導くには、留学プログラムが留学前プログラムと相乗効果を生むようなコースデザインが望ましい。今後は、より教育効果が上がるシステムを構築していきたい。

#### 付記

本稿は2007年度下関市立大学特定奨励研究費による研究成果の一部をまとめたものである。卒業試験前の多忙な時期に調査に協力してくださったUTCCの齋藤正雄先生、佐藤純先生、福池秋水先生、湊佳世先生、およびPongpisit Pimchai部長、ならびにタイ語から日本語への翻訳をしてくれたKorwong Sawineeさんに心よりお礼を申し上げます。また、国際交流基金日本語国際センター図書館が所蔵している日本国内で希少なタマサート大学出版の図書を、京都支部で閲覧できるように取り計らってくださった山本千重さんに深謝したい。

#### 注

- 1) 新型肺炎 SARS が流行した 2003 年を除いて、毎年留学生を受入れている (Pongpisit 部長の談話)。
- 2) 小学校では英語と中国語は自由選択科目であるが、日本語教育は行われていない。中学校では日本語は英語・仏語・アラビア語・中国語とともに外国語の選択科目であり (Voravudhi, 2001: 109)、高校では仏語・独語・西語・アラビア語・中国語・ペルシー語とともに第二外国語と位置付けられている (Pranee, 2004: 72)。
- 3) 佐藤先生が修士論文で得た研究成果に依拠する。
- 4) 2004 年に入学した学生から適用されているシラバスを和訳した。
- 5) 「観光日本語」「日本語通訳」「日本学セミナー」「職業体験」は担当する教員が不在のため、この数年は非開講である (佐藤先生、および Korwong さんの談話)。
- 6) 「報告・連絡・相談」の頭文字で、仕事を円滑に進めるために上司や同僚に報告・連絡・相談を実行せよというスローガンである。
- 7) タイ人は約束の時刻に遅れそうになった場合「ユーチュイ チュイ (yu choei choei) = いるだけさ、あくせくしない」と言い、不利や災害に対して「マイペンライ (mai pen rai) = どうでもいいや、なるようになるさ」を口にする (河部, 1976: 77)。後者については、日本人がしばしば不快な思いをしたり、日本人とタイ人との間に摩擦を起こしたりしていると指摘されている (国立国語研究所, 2000: 1)。
- 8) タイ人は規律や決まりきった仕事に適応しないのであまり良い兵隊になれないとか、スケジュールに従って働くような役所仕事の感覚に欠けると言われる。あるいは、タイ人は勤勉さや想像力に欠け、単純作業以外はあまりできないとも言われる。この国民性はタイ社会の大半を占める農民の慣行に由来し (河部, 1976: 74)、農民は現世に過大な期待を持っていないからと説明される (田中, 1981: 49)。
- 9) スワンナプーム国際空港は敷地面積が成田国際空港の3倍にあたり (タイ政府観光庁, 2007)、航空機を降りてから入国審査のカウンターまで、ワット・プラケオのヤック (鬼) を見上げながら延々と歩く。斬新な空港ビルとタイ仏教 (上座部仏教) を象徴するヤックの組合せが意表を衝くが、タイの社会構造 (海外の文化を摂取して自らの優越性を被支配層に誇示してきた支配層と、仏教の教えに従って来世での幸福を祈りつづけてきた被支配層の二階層) を図らずも示唆していると言えよう (田中, 1981: 45-49)。スワンナプーム国際空港がアジアのハブ空港として評価が高まるに連れ、世界的な企業は東南アジアの拠点を隣国の諸都市からバンコクに置き換えてつあり、日系企業もその例外ではない。
- 10) UTCC は日本の大学と交換留学の協定を結んでいないので、本学への短期留学は日本語学科の学生が UTCC を通して日本に留学する唯一の道である (佐藤先生の談話)。

#### 参考文献

- 赤木攻 (1989) 『タイの政治と文化：剛と柔』勁草書房
- 綾部恒雄 (1982) 「民族と言語」綾部恒雄・永積昭 (編著) 『もっと知りたいタイ』弘文堂 79-104.
- Voravudhi Chirasombutti (ウォラウット チラソンバット) (2001) 「タイの言語政策：日本語教育の場合」『世界の日本語教育：日本語教育事情報告編』国際交流基金日本語国際センター 6: 105-114.
- 大畑真理子 (2003) 『日本人と働くタイ人のための職場の日本語』タマサート大学教養学部日本語学科
- 河部利夫 (1976) 『タイ：その変動の中で』泰流社
- 国立国語研究所 (2000) 『日本語と外国語との対照研究 VIII マイペンライ (2) : タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その2』くろしお出版
- 田中忠治 (1981) 『新タイ事情 (上)』日中出版
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター (1994a) 『初級日本語』凡人社

東京外国語大学留学生日本語教育センター (1994b) 『中級日本語』 凡人社

富田竹二郎 (1990) 『タイ日辞典 改訂版』 養徳社

Pranee Jongsutjarittam (プラニー チョンスッチャリットタム) (2004) 「タイ国後期中等教育のための日本語シラバス」 『世界の日本語教育：日本語教育事情報告編』 国際交流基金日本語国際センター 7: 71-82.

山田均 (2002) 「タイとの文化交流におけるターゲット」 国際交流基金 『タイ：国別文化事情』 国際交流基金 76-82.

国際交流基金 (2006) 「日本語教育国別情報」

< [http://www.jpfi.go.jp/j/japan\\_j/oversea/kunibetsu/2006/thailand.html](http://www.jpfi.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/2006/thailand.html)>2008年1月16日参照

タイ政府観光庁 (2007) 「Amazing Thailand」  
<<http://www.thailandtravel.or.jp/>>2008年2月6日参照

UTCC (2007) 「Management Week: The New Era of Management」  
< <http://www.managementweekutcc.com/profile.html>>2008年2月15日参照

UTCC (2008) 「School of Humanities」  
<<http://www.utcc.ac.th/schoolofhumanities/fac-hist.htm>>2008年2月15日参照